

「無量大成塾」開塾一周年

小学5年生と中学1、2年生8名でスタートした「無量大成塾」が今年4月に一周年を迎えます。
この1年を振り返っての感想や今後の抱負を塾長の竹下光彦先生にお伺いしました。

竹下光彦先生



金剛院は約150年ほど前、智観比丘尼(ちかんびくに)という女のお坊さん(尼さん)が長崎村の子どもたちに礼儀作法や読み書きを教えた「寺子屋」でした。当時はこうしたお寺が日本じゅうの各地にあり、江戸時代から幕末にかけて日本人の高い識字率はこうした「地域による教育」によって支えられていました。

そんなルーツをもつ金剛院と、椎名町で幼少時代を過ごし、長年教育関係の出版社を経営してきた竹下光彦先生とのコラボレーションで始まった「無量大成塾」。「地域の子どもの、自ら考える力を育てたい」という思いによって「平成の寺子屋」がスタートしました。(住職記)



——開塾していちばん意外だったことは何ですか？

塾のことがラジオ番組で紹介されると翌日すぐに連絡があり、何人もの方が見学されたり入塾されたりしました。

——無量大成塾ならではの授業には、どんなものがあるのですか？

小学生を対象にした「漢字ボードゲーム」や、中学生の英語でインターネットから取り出したやさしい英語を辞書を使って読む学習など教科書以外の素材から情報を得ることに生徒たちは非常に興味を示し、学ぶ楽しみを体験したようです。

また、子どもたち自身が作業活動を通じて学ぶ「ワークショップ型」の授業や、香川先生が担当するマンガを素材に使った作文の授業など、子どもたちの興味を湧かせる工夫をした授業もとても好評でした。

——ご家庭からはどんな感想を聞かれていますか？

「クラブ活動の時間帯と重なって思うように通えない」といった感想がありましたが、当塾は家族と一緒に夕食時間を確保すること、夜遅い時間の帰宅を避けるという趣旨で早めの時間(土曜午前、平日5~6時)に開塾しています。この基本方針は今後とも維持したいと考えていますのでご理解いただきたいと思います。



——学校からはどのような感想が寄せられましたか？

小学校5年生を対象にディベート(チームに分かれて勝敗を争う議論)を行ったのですが「授業でも採り入れたい」との感想をいただきました。こうした授業は少人数の塾だからこそ可能なので、学校の正課ではなかなか導入がしにくいと思いますが、こうした意見交換は大事にしたいと思います。

——子どもたちは1年でどのように成長・変化しましたか？

「読み・書き・計算」といった基礎部分の集中力がついてきたと感じています。小学校5年生と中学校2年生だけのクラスからスタートしたのでまだ受験の結果は出ていませんが、来年の中・高受検でその成果が問われることとなります。

——1年間の総括と今後の抱負をお願いします。

保護者の方が学ぶことに熱心で、日ごろからその喜びを示すと子どもも勉強に関心を示すようになります。学習やしつけの指導で命令や強制は逆効果。挨拶ひとつにしても、大人が自ら進んで実践すれば子どもたちはその意味を自然に理解するようになります。このことは自分たち大人が常に意識しなければなりません。今後は任意参加の「子ども古典教室」



の開講(『論語』などの古典の音読・書写・解釈など)や、進学試験の結果だけでなく英検や漢検などでも好成績が出せるように、過去の問題などを教材に採り入れる準備をしています。また、学校との連携をさらに深めること、年に2回の懇親会のほかに公開授業や遠足なども計画しています。



——皆様に伝えたいことなどがありませんか？

子どもたちが元気な町は活力のある町、繁栄する町です。私自身が育ったこの地域を「子育ての町」にするために、お寺や学校、地域の皆さまと力を合わせて微力を捧げていきたいと願っています。

※「無量大成塾」の詳細などは別紙のご案内をご覧ください。